

授 業 概 要

秋田社会福祉専門学校

科目名	生活支援技術Ⅲ	
実務経験	特別養護老人ホーム、デイサービス介護職員	
対象学生	総合福祉学科 2年	
授業時間数・単位数	15コマ ・ 1単位	
授業方法	講 義 [○] ・ 演 習 [] ・ 実 習 []	
授業の概要	実務者研修での学習を振り返り、演習形式にて介助者・利用者役を体験的に学習する。	
授業の到達目標	尊厳の保持の観点から、どのような状態であってもその人の自立・自律を尊重し、潜在能力の引き出しを行うとともに、適切な介護技術を用いて、安全な援助技術を習得する。	
成績評価方法と基準	出席15%、目標試験の合格80%、授業態度5%を、学則に定める成績評価の基準に従い評価	
準備学習・時間外学習		
使用教科書・教材・参考書	生活支援技術（中央法規出版）他	
授業上の注意点	演習では指示に従い、安全に実施するよう心掛ける。	
授業計画（内容）		コマ数
1. 住環境の整備（演習）		2
2. 寝床整備の技法（演習）		2
3. 感染防止の介護（演習）		1
4. 移動の介護～安全で的確な移動・移乗の介助の技法（演習） ①歩行の介助の技法 ②車椅子の介助の技法 ③ベッド上の移動の技法 ④体位変換と安楽な体位の保持		2
5. 食事の介護～利用者の状態・状況に応じた介助の留意点 （感覚機能低下、運動機能低下、認知・知覚機能低下、誤嚥・窒息の防止、脱水の予防）		1
6. 排泄の介護～安全で的確な排泄介助の技法 ①トイレ ②ポータブルトイレ ③採尿器、差し込み便器 ④おむつ		2
7. 入浴・清潔保持の介護～状態・状況に応じた安全で的確な技法（演習） ～清拭、入浴、シャワー浴、洗髪～		2
8. 終末期の介護の基本的視点		1
9. 終末期の心身の状態・QOLを高めるための援助		1
10. 終末期における利用者および家族への支援		1
	合計	15
	授業単位数	1

授 業 概 要

秋田社会福祉専門学校

科目名	生活支援技術Ⅳ	
実務経験	特別養護老人ホーム、デイサービス介護職員	
対象学生	総合福祉学科 2年	
授業時間数・単位数	30コマ ・ 2単位	
授業方法	講 義 [○] ・ 演 習 [] ・ 実 習 []	
授業の概要	内部障害者、視覚・聴覚障害者、肢体不自由者、知的障害者、精神障害者、重複障害者、高次脳機能障害者の生活への影響を理解し、自立した生活支援方法を学ぶ。	
授業の到達目標	それぞれの障害による生活支障を理解し、障害に応じた生活支援方法を説明できる。必要な福祉用具について、目的、使用方法、注意点が理解できる。	
成績評価方法と基準	出席15%、目標試験の合格80%、授業態度5%を、学則に定める成績評価の基準に従い評価	
準備学習・時間外学習		
使用教科書・教材・参考書	【講義時使用テキスト】 最新介護福祉士養成講座（第2版） 8 生活支援技術Ⅲ／中央法規出版	
授業上の注意点		
	授業計画（内容）	コマ数
	1. 利用者の状態・状況に応じた生活支援技術とは	1
	2. 肢体不自由（運動機能障害）に応じた介護	1
	3. 視覚障害に応じた介護	1
	4. 聴覚・言語障害に応じた介護	1
	5. 重複障害（盲ろう）に応じた介護	1
	6. 内部障害（心臓機能障害）に応じた介護	1
	7. 内部障害（呼吸器機能障害）に応じた介護	1
	8. 内部障害（腎臓機能障害）に応じた介護	1
	9. 内部障害（膀胱・直腸機能障害）に応じた介護	1
	10. 内部障害（小腸の機能障害）に応じた介護	1
	11. 内部障害（HIVによる免疫機能障害）に応じた介護	1
	12. 内部障害（肝臓機能障害）に応じた介護	1
	13. 重症心身障害に応じた介護 の	1
	14. 事例演習① ～肢体不自由のある人の理解、視覚障害のある人の理解	1
	15. 事例演習② ～聴覚・言語・盲ろう重複障害のある人の理解	1
	16. 事例演習③ ～人工ペースメーカーを使用している人の理解、呼吸器機能障害のある人の理解	1
	17. 事例演習④ ～腎臓機能障害・肝臓機能障害のある人の理解	1
	18. 事例演習⑤ ～膀胱・直腸・小腸機能障害のある人の理解	1
	19. 知的障害に応じた介護	1
	20. 精神障害に応じた介護	1
	21. 高次脳機能障害に応じた介護	1
	22. 発達障害に応じた介護	1
	23. （難病）筋委縮性側索硬化症（ALS）に応じた介護	1

授 業 概 要

秋田社会福祉専門学校

科目名	生活支援技術Ⅴ（調理実習）	
実務経験	管理栄養士として事業所等での実務経験	
対象学生	総合福祉学科・社会福祉学科・心理学科 2年	
授業時間数・単位数	20コマ	・ 1単位
授業方法	講 義 [○] ・ 演 習 [] ・ 実 習 [○]	
授業の概要	衣食住の「食」を実践的に学習する。	
授業の到達目標	「食生活」に関わる実践力を身につける。	
成績評価方法と基準	授業態度、出席状況、安全に演習へ参加することが出来るかを、学則に定める成績評価の基準に従い評価	
準備学習・時間外学習		
使用教科書・教材・参考書	資料は都度配布	
授業上の注意点	演習では指示に従い、安全に実施するよう心掛ける。	
授業計画（内容）		
		コマ数
1. 調理実習①		2
2. 調理実習②		2
3. 調理実習③		2
4. 調理実習④		2
5. 調理実習⑤		2
6. 調理実習⑥		2
7. 調理実習⑦		2
8. 調理実習⑧		2
9. 調理実習⑨		2
10. 調理実習⑩		2
	合計	20
	授業単位数	2

授 業 概 要

秋田社会福祉専門学校

科目名	コミュニケーション技術Ⅱ	
実務経験	介護福祉士養成施設教員	
対象学生	総合福祉学科 2年	
授業時間数・単位数	15コマ ・ 1 単位	
授業方法	講 義 [○] ・ 演 習 [○] ・ 実 習 []	
授業の概要	今後ますます増えると予想される認知症高齢者の医学的・心理的理解を深め、ケア理念や日常生活支援の基本的視点を踏まえた介護実践を理解する。	
授業の到達目標	ケアのプロセスとしてますます求められる対人関係の感性と能力を磨くためのコミュニケーション力が理解できる。	
成績評価方法と基準	出席15%、科目試験の合格80%、授業態度5%を、学則に定める成績評価の基準に従い評価	
準備学習・時間外学習	授業で学習したことを日常生活においても意識して活用してみましょう。	
使用教科書・教材・参考書	最新 介護福祉士養成講座テキスト 第5巻「コミュニケーション技術」（第2版）	
授業上の注意点	演習には主体的に参加しましょう。	
授業計画（内容）		コマ数
1. 介護におけるコミュニケーションとコミュニケーションの対象		1
2. 援助関係とコミュニケーション		1
3. コミュニケーションの基本技術 ①コミュニケーション態度に関する基本技術		1
4. コミュニケーションの基本技術 ②目的別のコミュニケーション技術		1
5. コミュニケーションの基本技術 ③集団におけるコミュニケーション技術		1
6. コミュニケーション障害への対応の基本		1
7. さまざまなコミュニケーション障害のある人への支援		1
8. 家族とのコミュニケーション		1
9. 家族関係と介護ストレスへの対応		1
10. 介護におけるチームのコミュニケーション		1
11. 報告・連絡・相談の技術		1
12. 記録の技術		1
13. 会議・議事進行・説明の技術		1
14. 事例検討に関する技術		1
15. 情報の活用と管理のための技術		1
合計		15
授業単位数		1

授 業 概 要

秋田社会福祉専門学校

科目名	認知症の理解Ⅱ	
担当教員の実務経験	特別養護老人ホーム、通所介護事業所	
対象学生	総合福祉学科 2 年	
授業時間数・単位数	15 コマ	1 単位
授業方法	講 義 [○] ・ 演 習 [○] ・ 実 習 []	
授業の概要	・ 認知症の本質や認知症の人の心理状態、認知症特有の症状やケア、認知症を取り巻く社会環境などを学び、全人的ケアが提供できる方法を学習する。	
授業の到達目標	・ 認知症ケアについて正しく理解し、認知症のみならず家族も含めた周囲の環境にも配慮した介護の視点を習得する。	
成績評価方法と基準	試験及びレポート80%、学習への取り組み20%	
準備学習・時間外学習		
使用教科書・教材・参考書	【講義時使用テキスト】 最新介護福祉士養成講座（第2版） 13 認知症の理解／中央法規出版 【参考文献】 「ひもときシート」活用ガイドブック／中央法規出版、心が通い合う認知症ケア／日総研 他	
授業上の注意点	授業最後のリアクションペーパー提出で出席とする	
授業計画（内容）		コマ数
1.	認知症ケアの実践（パーソン・センタード・ケア）	1
2.	認知症の人の理解と認知症の人の特性を踏まえたアセスメントツール① センター方式	1
3.	認知症の人の理解と認知症の人の特性を踏まえたアセスメントツール② ひもときシート	1
4.	認知症の人の理解と認知症の人の特性を踏まえたアセスメントツール③ 健康状態のアセスメント	1
5.	認知症の人とのコミュニケーション	1
6.	認知症の人へのケア （食事の準備、服薬管理、ごみの処理、食事）	1
7.	認知症の人へのケア （排泄、入浴、清潔保持、休息と睡眠のケア）	1
8.	認知症の人へのケア （活動・生きがいのケア、BPSDのケア、）	1
9.	認知症の人へのさまざまなアプローチ （ユマニチュード、バリデーション、その他各種のアプローチ）	1
10.	認知症の人の終末期医療と介護	1
11.	認知症と環境	1
12.	介護者支援（家族への支援）	1
13.	介護者支援（介護福祉職への支援）	1
14.	認知症の人の地域生活支援①（地域包括ケアシステムにおける認知症ケア）	1
15.	認知症の人の地域生活支援②（多職種連携と協働）	1
合計		15
授業単位数		1

授 業 概 要

秋田社会福祉専門学校

科目名	栄養学	
実務経験	管理栄養士として事業所等での実務経験	
対象学生	総合福祉学科・社会福祉学科・心理学科 2年	
授業時間数・単位数	14 コマ ・ 1 単位	
授業方法	講 義 [O] ・ 演 習 [] ・ 実 習 []	
授業の概要	生活構造の変化に応じて食生活も多様となるが、求められる機能と現状を理解する。	
授業の到達目標	さまざまな栄養素と食品、健康維持・増進のために必要な食生活の基礎知識を理解する。	
成績評価方法と基準	出席15%、レポート課題の達成度80%、授業態度5%を、学則に定める成績評価の基準に従い評価	
準備学習・時間外学習	前回のプリント課題の復習	
使用教科書・教材・参考書	【講義時使用テキスト】 大学で学ぶ食生活と健康のきほん／（株）化学同人	
授業上の注意点	積極的に授業に参加し、生活課題について考察する。	
授業計画（内容）		コマ数
1. 私たちの食生活と健康		1
2. 炭水化物 —その体内での働き—		1
3. たんぱく質 —その体内での働き—		1
4. 脂質 —その体内での働き—		1
5. ビタミンとミネラル —その体内での働き—		1
6. 食品の機能性		1
7. 妊娠期・授乳期の食生活と健康		1
8. 乳児期・幼児期の食生活と健康		1
9. 学童期・思春期の食生活と健康		1
10. 成人期・更年期の食生活と健康		1
11. 高齢期の食生活と健康		1
12. 健康づくりと食生活		1
13. 食生活と安全		1
14. 日本の伝統的食文化「和食」 他		1
合計		14
授業単位数		1

授 業 概 要

秋田社会福祉専門学校

科目名	ケア・コミュニケーション	
実務経験	介護福祉士養成施設教員	
対象学生	総合福祉学科 2年	
授業時間数・単位数	15コマ ・ 1 単位	
授業方法	講 義 [○] ・ 演 習 [○] ・ 実 習 []	
授業の概要	今後ますます増えると予想される認知症高齢者の医学的・心理的理解を深め、ケア理念や日常生活支援の基本的視点を踏まえた介護実践を理解する。	
授業の到達目標	ケアのプロセスとしてますます求められる対人関係の感性と能力を磨くためのコミュニケーション力が理解できる。	
成績評価方法と基準	出席15%、科目試験の合格80%、授業態度5%を、学則に定める成績評価の基準に従い評価	
準備学習・時間外学習	授業で学習したことを日常生活においても意識して活用してみましょう。	
使用教科書・教材・参考書	麻生塾ケア・コミュニケーション研究会 「介護スタッフのためのケア・コミュニケーション」株式会社ウイネット	
授業上の注意点	演習には主体的に参加しましょう。	
授業計画（内容）		コマ数
1. ケア・コミュニケーションの基本的な心構え		2
2. 被援助者との関係を築くコミュニケーション ～好感・信頼感を高めるコミュニケーション		2
3. 被援助者との関係を築くコミュニケーション ～敬意を伝えるコミュニケーション		1
4. 被援助者の理解と情報の交換、行動化の支援～受容と共感のコミュニケーション		2
5. 被援助者の理解と情報の交換、行動化の支援～苦情やクレームに対応する		1
6. 被援助者の理解と情報の交換、行動化の支援～わかりやすく説明し、同意を確認する		1
7. 被援助者の理解と情報の交換、行動化の支援～主体的な選択や行動を引き出す		1
8. チームワークとコミュニケーション～チームの一員として仕事を進める		1
9. チームワークとコミュニケーション～建設的でさわやかに対話する		1
10. その人らしさを大切にするコミュニケーション		3
	合計	15
	授業単位数	1

授 業 概 要

秋田社会福祉専門学校

科目名	ボランティア論	
担当教員の実務経験		
対象学生	総合福祉学科 2 年生	
授業時間数・単位数	15 コマ	・ 1 単位
授業方法	講 義 [○] ・ 演 習 [] ・ 実 習 [○]	
授業の概要	阪神淡路大震災以来、ボランティアに対する価値観が多様化する中、自らが積極的にボランティアをする意義等を見出し、社会福祉施設等でのボランティアを実際に体験する。	
授業の到達目標	体験を通じたボランティアに対する考え方をまとめられる。	
成績評価方法と基準	出席15%、目標試験の合格80%、授業態度5%を、学則に定める成績評価の基準に従い評価	
準備学習・時間外学習	体調管理をしっかりとし、ボランティア体験等に参加できるようにする。	
使用教科書・教材・参考書	授業内で配布されるコピー等を利用 【参考文献】 ボランティア論／(株)みらい、新ボランティア学のすすめ／昭和堂 ボランティアのすすめ(基礎から実践まで)／ミネルヴァ書房	
授業上の注意点		
	授業計画(内容)	コマ数
	1. ボランティアとは何か	1
	2. ボランティア活動の範囲	1
	3. 日本におけるボランティアの普及・推進の歩み	1
	4. さまざまなボランティア実践からのボランティア学習	3
	5. ボランティア活動支援とボランティアコーディネーター	1
	6. ボランティアの準備	1
	7. ボランティア体験	6
	8. まとめ	1
	合計	15
	授業単位数	1

授 業 概 要

秋田社会福祉専門学校

科目名	生活と福祉	
担当者の実務経験	通所介護事業所勤務介護員経験	
対象学生	総合福祉学科2年生	
授業時間数・単位数	15 コマ ・ 1 単位	
授業方法	講 義 [○] ・ 演 習 [] ・ 実 習 []	
授業の概要	生活の構造や生活の質の評価の理解を深め、次世代や生活上の問題に直面している人々に対する支援を考えるとともに、他者に対する生活実践力を付与するための意識づけができるようになる。	
授業の到達目標	生活経営に関する基礎的な知識を習得し、生活問題に対する支援を考えることができる。	
成績評価方法と基準	出席15%、レポート課題の達成度80%、授業態度5%を、学則に定める成績評価の基準に従い評価	
準備学習・時間外学習	各節末のワークシートを作成しておく。	
使用教科書・教材・参考書	中川英子編著「新版 福祉のための家政学―自立した生活者を目指して―」建帛社 国民生活センター「2019年版 くらしの豆知識」	
授業上の注意点	積極的に授業に参加し、生活課題について考察する。	
授業計画（内容）		コマ数
1. 家族の意義と機能		1
2. 世帯から見る家族の変化		1
3. 結婚・離婚・子育てをめぐる変化		1
4. 家族と法律（家族間の権利義務、相続と遺言）		1
5. 生活史（生活史の意義と効果）		1
6. 生活史の聞き取り		1
7. 経済と家計		1
8. 経済社会の変化と消費者問題		1
9. さまざまな手口を使う問題商法		1
10. 消費者のための法律や制度（安全に関するマーク、洗濯表示、クーリングオフができる取引）		1
12. 生活時間と家事労働		1
13. 社会的ネットワーク（子育て・介護に関する社会的ネットワーク）		1
14. 生活福祉情報		1
15. シニアライフを楽しむための生活の管理		1
合計		15
授業単位数		1

授 業 概 要

秋田社会福祉専門学校

科目名	社会福祉概論	
担当教員の実務経験	通所介護施設勤務経験	
対象学生	社会福祉学科1年、総合福祉学科2年	
授業時間数・単位数	30 コマ ・ 2 単位	
授業方法	講 義 [○] ・ 演 習 [○] ・ 実 習 []	
授業の概要	社会福祉に関する基礎知識の体系的な習得をめざす。具体的には、現代社会において社会福祉が果たしている役割や機能、福祉専門職としての資格である社会福祉士として活躍するために必要な基礎知識、社会福祉の歴史（社会事業成立以前、社会事業成立期、戦後）社会福祉の法体系と運営実施体制、社会福祉の財源と費用負担、民間社会福祉の組織と活動、日本の社会福祉の動向と今後の課題などについて学修する。	
授業の到達目標	わが国の社会福祉政策や福祉サービス等の知識を習得し、レポートおよび科目試験合格を目指す。	
成績評価方法と基準	科目終了試験の成績及び出席状況により総合的に評価する	
準備学習・時間外学習		
使用教科書・教材・参考書	授業内で配布される資料等を利用 【参考文献】 社会福祉士養成講座編集委員会『新・社会福祉士養成講座4 現代社会と福祉』中央法規。	
授業上の注意点		
授業計画（内容）		コマ数
1. 社会福祉の概念と枠組み		1
2. 社会福祉と関連施策		2
3. 社会福祉の思想と倫理		2
4. 日本における社会福祉の史的展開：わが国の近代、現代の社会福祉		1
5. 欧米における社会福祉の史的展開：イギリスなどの社会福祉史について		1
6. 社会福祉の援助対象		2
7. 社会福祉のニーズ		1
8. 社会福祉政策と制度体系		2
9. 社会福祉の法制度		1
10. 社会福祉の行政		1
11. 社会福祉の財政		1
12. 社会福祉と民間福祉活動		1
13. 社会福祉援助の意味（相談援助） 直接援助技術、間接援助技術、関連援助技術について		1
14. 社会福祉援助の方法 傾聴、共感、洞察などの人間関係の技法について		2
15. 関連諸サービスとの連携 社会福祉と所得保障、国民保健サービス、住宅、雇用などとの連携について		2
16. 社会福祉機関の組織と運営 福祉事務所、児童相談所、身体障害者更生相談所、知的障害者更生相談所などの相談機関について		2
17. 社会福祉援助の利用と支援 利用者主体、側面的援助について		1

18. 社会福祉援助の評価システム	1
19. 社会福祉の専門性：社会福祉専門職の諸資格、社会福祉士	1
20. 戦後社会福祉の展開とこれからの社会福祉政策の方向性① 社会福祉の国際動向 (1) イギリス、アメリカの社会福祉の動向	1
21. 戦後社会福祉の展開とこれからの社会福祉政策の方向性② 社会福祉の国際動向 (2) ドイツ、北欧、アジアの社会福祉の動向	1
22. 21世紀の社会福祉の展望	1
23. まとめ	1
合計	30
授業単位数	2

授 業 概 要

秋田社会福祉専門学校

科目名	ピアヘルパー認定試験対策	
担当教員の実務経験		
対象学生	総合福祉学科2年生	
授業時間数・単位数	30 コマ ・ 2 単位	
授業方法	講 義 [○] ・ 演 習 [] ・ 実 習 []	
授業の概要	カウンセリングの基礎知識の取得を通し、介護職に必要な情報収集・アセスメントを含めた様々なコミュニティで活用し、積極的な実務活動への能力を高める。	
授業の到達目標	日本教育カウンセラー協会主催「ピアヘルパー」検定試験に必要な知識の習得	
成績評価方法と基準	出席15%、目標試験の合格80%、授業態度5%を、学則に定める成績評価の基準に従い評価	
準備学習・時間外学習	一般的な心理学概論の知識等も学習する。積極的に興味をもてるよう関心を深めておく	
使用教科書・教材・参考書	日本教育カウンセラー協会編集「ピアヘルパーハンドブック」	
授業上の注意点		
	授業計画（内容）	コマ数
	1. 導入・構成的グループエンカウンター	2
	2. カウンセリングの定義と略史と必要性	2
	3. カウンセリングの種類	2
	4. ピアヘルピングと近接領域の関係	2
	5. ピアヘルピングのプロセス	2
	6. ピアヘルパーのパーソナリティ	2
	7. 最近のカウンセリングの動向	2
	8. ピアヘルピングの言語的技法	2
	9. ピアヘルピングの非言語的技法	2
	10. 対話上の諸問題への対処法	2
	11. 問題の対処法	2
	12. ピアヘルパーの心がまえ	2
	13. ヘルピングスキルの上達法	2
	14. 各問題と留意点	4
	合計	30
	授業単位数	2

授 業 概 要

秋田社会福祉専門学校

科目名	生活とアクティビティ・ケア・サービス	
担当教員実務経験	別養護老人ホーム、デイサービス介護職員	
対象学生	総合福祉学科・社会福祉学科・心理学科 2年	
授業時間数・単位数	15 コマ	・ 1 単位
授業方法	講 義 [] ・ 演 習 [○] ・ 実 習 []	
授業の概要	アクティビティの意義を理解し、「いきいき」と快い体験しながら生活の活性化支援の在り方・実践方法を学ぶ。	
授業の到達目標	アクティビティがQOL（人生の質、生命の質）に影響を与え、尊厳と自立を尊重することにつながることや支援の方法が理解できる。	
成績評価方法と基準	出席率、提出物、課題等を総合的に判断して評価する。	
準備学習・時間外学習		
使用教科書・教材・参考書	「改訂アクティビティ・サービス ―心身と生活の活性化を支援する」中央法規出版他	
授業上の注意点		
授業計画（内容）		コマ数
1. 生活支援学としてのアクティビティ・サービス クラフトを活用したアクティビティ～飛び出すカード作り	1	
2. 日常生活用品を活用したアクティビティ～保冷剤再利用の芳香剤作り	1	
3. 日常生活場面でのアクティビティ～似合う色探しをしてみよう	1	
4. 趣味活動のアクティビティ～新聞紙を活用したちぎり絵表現	1	
5. 家事や職歴を生かすアクティビティ～お裁縫をしてみよう	1	
6. 回想を促すアクティビティ	1	
7. 身体活動のアクティビティ	1	
8. 知的活動のアクティビティ	1	
9. おやつアクティビティ	4	
10. 浴衣の着付け	2	
11. ものづくり（米ぬか石鹸）	1	
	合計	15
	授業単位数	1

授 業 概 要

秋田社会福祉専門学校

科目名	認知症ケア指導管理士資格講座	
実務経験	看護師	
対象学生	総合福祉学科 2 年生	
授業時間数・単位数	15 コマ	1 単位
授業方法	講 義 [○] ・ 演 習 [○] ・ 実 習 []	
授業の概要	今後ますます増えると予想される認知症高齢者の医学的・心理的理解を深め、ケア理念や日常生活支援の基本的視点を踏まえた介護実践を理解する。	
授業の到達目標	認知症ケア指導管理士試験（初級）の合格を目指す。	
成績評価方法と基準	出席15%、目標試験の合格80%、授業態度5%を、学則に定める成績評価の基準に従い評価	
準備学習・時間外学習	試験対策としてポイントを各自復習	
使用教科書・教材・参考書	改訂版 「認知症ケア指導管理士 公式テキスト」他 練習問題配布	
授業上の注意点	用語などは都度確認しながら学習を進める	
授業計画（内容）		コマ数
1. 認知症高齢者の現状	1	
2. 認知症の医学的理解	1	
3. 認知症の心理的理解	1	
4. 認知症ケア理念と認知症ケア指導管理士の役割	1	
5. 認知症ケアの実践	1	
6. 日常生活支援	1	
7. 認知症への薬物療法	1	
8. 認知症への非薬物療法	1	
9. 家族への支援	1	
10. 認知症ケアにおける社会資源 （医療保険制度、介護保険制度、公的年金制度、生活保護制度、成年後見制度と日常生活自立支援事業、高齢者虐待法、悪徳商法とクーリングオフ制度）	2	
11. 認知症の人に対する医療サービス・保健福祉施策	1	
12. 各種のインフォーマルサービスと地域における支援	1	
13. まとめ（確認問題）	2	
合計		15
授業単位数		1

授 業 概 要

秋田社会福祉専門学校

科目名	健康予防管理専門士資格講座Ⅱ	
担当教員の実務経験	看護師	
対象学生	総合福祉学科 2年	
授業時間数・単位数	15 コマ	・ 1 単位
授業方法	講 義 [] ・ 演 習 [○] ・ 実 習 []	
授業の概要	健康予防管理専門士試験に向けて学習を進めるとともに、未然に病気を防ぐ環境づくり・体力づくり・生活づくりを学ぶ。	
授業の到達目標	健康の保持と増進を進める具体的な方法や技術を身につける	
成績評価方法と基準	試験及びレポート80%、学習への取り組み20%	
準備学習・時間外学習		
使用教科書・教材・参考書	【講義時使用テキスト】 「健康予防管理専門士試験 公式テキスト」一般社団法人総合ケア推進協議会 【参考文献】 医学一般／メヂカルフレンド社、得意になる解剖生理／照林社 人体の構造と機能／メディカ出版、体の地図帳／講談社	
授業上の注意点		
	授業計画（内容）	コマ数
	1. 健康予防管理・指導の基礎知識から演習問題。（回答の解説）	2
	2. 健康づくりの基礎知識から演習問題。（回答の解説）	2
	3. 食事・栄養に関する健康づくりから演習問題。（回答の解説）	2
	4. 高齢者の健康づくりから演習問題。（回答の解説）	2
	5. 運動による健康づくりから演習問題。（回答の解説）	2
	6. 生活習慣病と予防の知識から演習問題。（回答の解説）	2
	7. 確認問題	3
	合計	15
	授業単位数	1

授 業 概 要

秋田社会福祉専門学校

科目名	福祉用具専門相談員講座	
担当教員の実務経験	介護・看護・理学療法経験	
対象学生	総合福祉学科 1、2 年生	
授業時間数・単位数	34 コマ ・ 2 単位	
授業方法	講 義 [○] ・ 演 習 [○] ・ 実 習 []	
授業の概要	高齢者が尊厳を保持し住み慣れた地域で、その有する能力に応じ自立した日常生活を営むことができるよう、個別ケアマネジメントに基づいた福祉用具の選択・計画能力を身につける。	
授業の到達目標	「福祉用具専門相談員」として必要とされる知識・能力を身につける。	
成績評価方法と基準	各コマの達成課題の合格及び、授業態度を、学則に定める成績評価の基準に従い評価	
準備学習・時間外学習	次回の学習内容の予習を行うとともに、課題の作成を行う	
使用教科書・教材・参考書	一般社団法人シルバーサービス振興会編集「新訂 福祉用具専門相談員研修テキスト第2版」	
授業上の注意点		
授業計画（内容）		コマ数
1. 福祉用具の役割		1
2. 福祉用具専門相談員の役割と職業倫理		1
3. 介護保険法等の考え方と仕組み		2
4. 福祉用具の研究開発及び普及の促進に関する法律		1
5. 介護サービスにおける視点		2
6. からだとこころの理解		3
7. リハビリテーション		1
8. 高齢者の日常生活の理解		1
9. 介護技術		4
10. 住環境と住宅改修		1
11. 福祉用具の特徴と活用		5
12. 福祉用具供給の仕組み		5
13. 福祉用具サービス計画の意義と活用		6
14. 事例演習		5
* 指定時間数を満たすため、上記コマ数を調整し増やすことがある。		
合計		34
授業単位数		2

授 業 概 要

秋田社会福祉専門学校

科目名	就職対策講座Ⅱ	
担当教員の実務経験		
対象学生	総合福祉学科2年生	
授業時間数・単位数	15 コマ ・ 1 単位	
授業方法	講 義 [○] ・ 演 習 [○] ・ 実 習 []	
授業の概要	就職に向けた自己理解、職業指導、事業所研究、就職面接対策等を通して、福祉関係事業所へのマッチング及び就職対策を行う。	
授業の到達目標	自己覚知を基に、自ら就職活動を主体的におこなえる。	
成績評価方法と基準	出席15%、レポート提出80%、授業態度5%を、学則に定める成績評価の基準に従い評価	
準備学習・時間外学習	各就職指導対策の実施ができる準備を行う（就活用用品等を揃える）	
使用教科書・教材・参考書	各授業中にプリントを配布し指示 （参考文献）専修・各種学校生のための就職成功へのステップ/実教出版	
授業上の注意点		
	授業計画（内容）	コマ数
	1. 就職ガイダンス	1
	2. 会社選び・仕事選びのための自己分析	3
	3. 求人票を研究しよう	1
	4. エントリーシートと履歴書について	1
	5. エントリーシートと履歴書の書き方のポイントについて	1
	6. 応募書類を書いてみよう	1
	7. 就職面接の実際	2
	8. 面接対策応答検討(面接ノートを作ろう)	3
	9. 就職面接会参加	1
	10. 内定承諾書・礼状の書き方・内定後の過ごし方	1
	合計	15
	授業単位数	1

授 業 概 要

秋田社会福祉専門学校

科目名	就職対策講座Ⅲ	
担当教員の実務経験		
対象学生	総合福祉学科2年生	
授業時間数・単位数	15 コマ ・ 1 単位	
授業方法	講 義 [○] ・ 演 習 [○] ・ 実 習 []	
授業の概要	就職に向けた一般常識対策を行う。	
授業の到達目標	就職活動に向けて一般常識問題に回答できる。	
成績評価方法と基準	出席15%、レポート提出80%、授業態度5%を、学則に定める成績評価の基準に従い評価	
準備学習・時間外学習	授業時間外時間を活用し、一般常識及び作文試験に向けて準備を行う	
使用教科書・教材・参考書	各授業中にプリントを配布し指示 (参考文献) 専修・各種学校生のためのマイロード21 (改訂版) / 実教出版	
授業上の注意点		
授業計画 (内容)		コマ数
1. 作文試験のねらい・評価基準・課題について		1
2. 作文の基礎知識・留意点		1
3. 作文の上達法 (作文を書いてみよう)		3
4. 適性検査について		1
5. 新しいタイプの適性検査 (SPI 2) の内容と対策		1
6. 一般常識の出題傾向 (漢字の読み書き問題)		1
7. 一般常識の出題傾向 (社会)		1
8. 一般常識の出題傾向 (英略語・略称)		1
9. 一般常識の出題傾向 (英語)		1
10. 一般常識の出題傾向 (数学)		1
11. 一般常識問題と解説		3
合計		15
授業単位数		1

授 業 概 要

秋田社会福祉専門学校

科目名	介護総合演習（実習指導）	
担当教員の実務経験	特別養護老人ホーム、通所介護事業所	
対象学生	総合福祉学科 2 年生	
授業時間数・単位数	30 コマ ・ 2 単位	
授業方法	講 義 [○] ・ 演 習 [] ・ 実 習 []	
授業の概要	会議実践に必要な知識や技術の統合を行うとともに、介護観を形成し、専門職としての態度を養う学習とする。 地域における様々な場において、対象者の生活理解する学習とする。	
授業の到達目標	介護実践における安全を管理するための基礎的な知識・技術を習得する。	
成績評価方法と基準	成績評価基準は、A（80点以上）・B（60点以上）・C（40点以上）・D（40点未満）とする。試験結果、出席率等を総合的に判断して評価	
準備学習・時間外学習	授業に先立ち課題・問題に取り組む他、時間を見つけて、自ら演習に取り組む。	
使用教科書・教材・参考書	中央法規「最新介護福祉士養成講座 第10巻 介護総合演習・介護実習」	
授業上の注意点		
授業計画（内容）		コマ数
1. 介護実習の意義と目的		1
2. 介護施設の特徴について ①訪問介護		1
3. " ②通所介護		1
4. " ③通所リハビリテーション		1
5. " ④特別養護老人ホーム		1
6. " ⑤介護老人保健施設		1
7. " ⑥養護老人ホーム		1
8. " ⑦グループホーム		1
9. " ⑧小規模多機能型居宅介護・看護小規模多機能型居宅介護		1
10. " ⑨経費老人ホーム		1
11. " ⑩障害者支援施設		1
12. " ⑪医療型障害児入所施設・療養介護施設		1
13. 実習に向けた事前学習		6
14. 実習に向けたオリエンテーション		4
15. 実習の振り返り		6
16. 実習のまとめと発表		2
合計		30
	授業単位数	2

授 業 概 要

秋田社会福祉専門学校

科目名	介護実習	
担当教員の実務経験	特別養護老人ホーム、通所介護事業所	
対象学生	総合福祉学科 2生	
授業時間数・単位数	8時間×27日間(216時間)	・ 5 単位
授業方法	講 義 [] ・ 演 習 [] ・ 実 習 [○]	
授業の概要	福祉施設にて27日間(①3日間②3日間③3日間④18日間の介護実習を行う。利用者様とかかわり、介護を必要とする方のニーズについて理解を深め、介護観を形成し、専門職としての態度を養う学習とする	
授業の到達目標	1. 実習先である施設や事業所が、地域においてどのような働きや役割を果たしているか理解する。 2. 利用者とのコミュニケーション等を通して、ニーズを捉える力を身につける。 3. 利用者のニーズに応じた基本的な生活支援の技術を身につける。 4. 利用者の生活支援のため、関係機関や専門職種との連携のあり方を理解する。	
成績評価方法と基準	1. 実習の出席状況 2. 実習態度 3. 実習記録の提出状況 4. 自己評価 5. 実習先からの評価 6. 実習日誌の内容 などから総合的に評価する。 —評価観点— 【関心・意欲・態度】挨拶や言葉遣いに留意し、利用者の尊厳を大切にできる態度で、意欲的に実習 に取り組むことができる。【思考・判断】利用者のニーズを把握し、状況に応じた支援について考え、適切な介護を理解することができる。【技能・表現】基本的な生活支援の技術が理解できる。観察技法を用いて、適切に記録を書くことができる。【知識・理解】実習先である施設や事業所、介護の業務、利用者の生活の特性を理解している。 評価基準は、A(優)・B(良)・C(可)・D(不可)とする。	
準備学習・時間外学習	実習に先立ち施設・事業所の概要や運営方針について事前学習する。	
使用教科書・教材・参考書	中央法規「最新介護福祉士養成講座 第10巻 介護総合演習・介護実習」／中央法規出版	
授業上の注意点		
授業計画(内容)		日数
1. 実習①障害者支援施設		3日
2. 実習②認知症対応型居宅介護		3日
3. 実習③入所施設		18日
4. 実習④デイサービスまたは小規模多機能型居宅介護		3日
合計		27日
授業単位数		5

授 業 概 要

秋田社会福祉専門学校

科目名	介護福祉総合演習Ⅰ	
担当教員の実務経験	特別養護老人ホーム、通所介護事業所	
対象学生	総合福祉学科2年	
授業時間数・単位数	16コマ ・ 1 単位	
授業方法	講 義 [] ・ 演 習 [○] ・ 実 習 []	
授業の概要	介護福祉士として必要な知識についての総合的な学習を通して、その基礎的理解を深める。	
成績評価方法と基準	出席状況と授業成果（点数）により総合的に評価する	
準備学習・時間外学習	各自、課題を振り返り不得意部分を復習する。	
準備学習・時間外学習	各自、授業中の課題を振り返る。	
使用教科書・教材・参考書	中央法規「介護福祉士 受験ワークブック」、その他	
授業上の注意点	各科目終了後にもう一度各授業中に行った課題を振り返る。	
授業計画（内容）		コマ数
1. 介護福祉士国家試験模擬問題①と解説		4
2. 介護福祉士国家試験模模擬問題②と解説		4
3. 介護福祉士国家試験模問題③と解説		4
4. 介護福祉士国家試験模模擬問題④と解説		4
合計		16
授業単位数		1

授 業 概 要

秋田社会福祉専門学校

科目名	介護福祉総合演習Ⅱ	
担当教員の実務経験	特別養護老人ホーム、通所介護事業所	
対象学生	総合福祉学科2年	
授業時間数・単位数	16コマ ・ 1 単位	
授業方法	講 義 [] ・ 演 習 [○] ・ 実 習 []	
授業の概要	介護福祉士として必要な知識についての総合的な学習を通して、その基礎的理解を深める。	
授業の到達目標	介護福祉士国家試験合格点を目指す。	
成績評価方法と基準	出席状況と授業成果（点数）により総合的に評価する	
準備学習・時間外学習	各自、課題を振り返り不得意部分を復習する。	
使用教科書・教材・参考書	中央法規「介護福祉士 受験ワークブック」、その他	
授業上の注意点	各科目終了後にもう一度各授業中に行った課題を振り返る。	
授業計画（内容）		コマ数
1. 介護福祉士国家試験模擬問題⑤と解説		4
2. 介護福祉士国家試験模擬問題⑥と解説		4
3. 介護福祉士国家試験過去問題①と解説		4
4. 介護福祉士国家試験過去問題②と解説		4
合計		16
授業単位数		1

授 業 概 要

秋田社会福祉専門学校

科目名	総合実践Ⅱ	
担当教員の実務経験		
対象学生	総合福祉学科2年	
授業時間数・単位数	15コマ ・ 1単位（左記を標準とし、個々の学生の状況により変更あり）	
授業方法	講義 [] ・ 演習 [○] ・ 実習 []	
授業の概要	総合的な学習によって、充実した学生生活を送ること。	
授業の到達目標	総合的な学習によって、充実した学生生活を送ることができることを目標とします。	
成績評価方法と基準	成績評価基準は、A(80点以上)・B(60点以上)・C(40点以上)・D(40点未満)とし、平常点によって評価します。	
準備学習・時間外学習		
使用教科書・教材・参考書		
授業上の注意点		
	授業計画（内容）	コマ数
	（1）校外活動	8
	（2）球技大会	4
	（3）学園祭	6
	（4）その他学校行事など	12
	合計	30
	授業単位数	2